

参加者の皆様へ①

- ✓ 記録や取材のため、会議の様子を撮影、録音します。
- ✓ 動画の一部は、後日、松戸市公式YouTubeで配信します。
- ✓ 写真の一部は広報に使用する可能性があります。
- ✓ 写りたくない方は、お近くの事務局までお声掛けください。

参加者の皆様へ②

- ✓ 参加者が写真を撮影される場合は、他の参加者の個人を特定できない写真となるようにご配慮をお願いします。
- ✓ 十分ご配慮いただければ、その写真をSNSへ投稿していただいても構いません。
- ✓ 参加者による動画の撮影、録音はご遠慮ください。

傍聴者の皆様へ①

- ✓ 開会前、会議中、閉会後に関わらず、予め定められたエリアでの傍聴をお願いします。
- ✓ 会議中は、発言、私語、拍手等の意思表示を伴う行為は行わないようにお願いします。

傍聴者の皆様へ②

- ✓ 記録や取材のための撮影に、傍聴者も写り込んでしまう場合があります。
- ✓ 写りたくない方は、お近くの事務局までお声掛けください。
- ✓ 傍聴者による撮影や録音は、報道・記録など主催者の許可がある場合以外にご遠慮ください。

会場の皆様全員へ

- ✓ 地震、火事等の災害時には、会場のアナウンスやスタッフの指示に従い、落ち着いて行動してください。

松戸市環境未来会議2024

第4回 ゼロカーボンに向けた 取り組みを検討する（生活編）

2024 年 8 月 18 日（日）

13:00 ～ 17:00 アートスポットまつど



開 会

✓「ゼロカーボンシティまつど」の実現に向けた市民、事業者、行政の取り組みをまとめます。

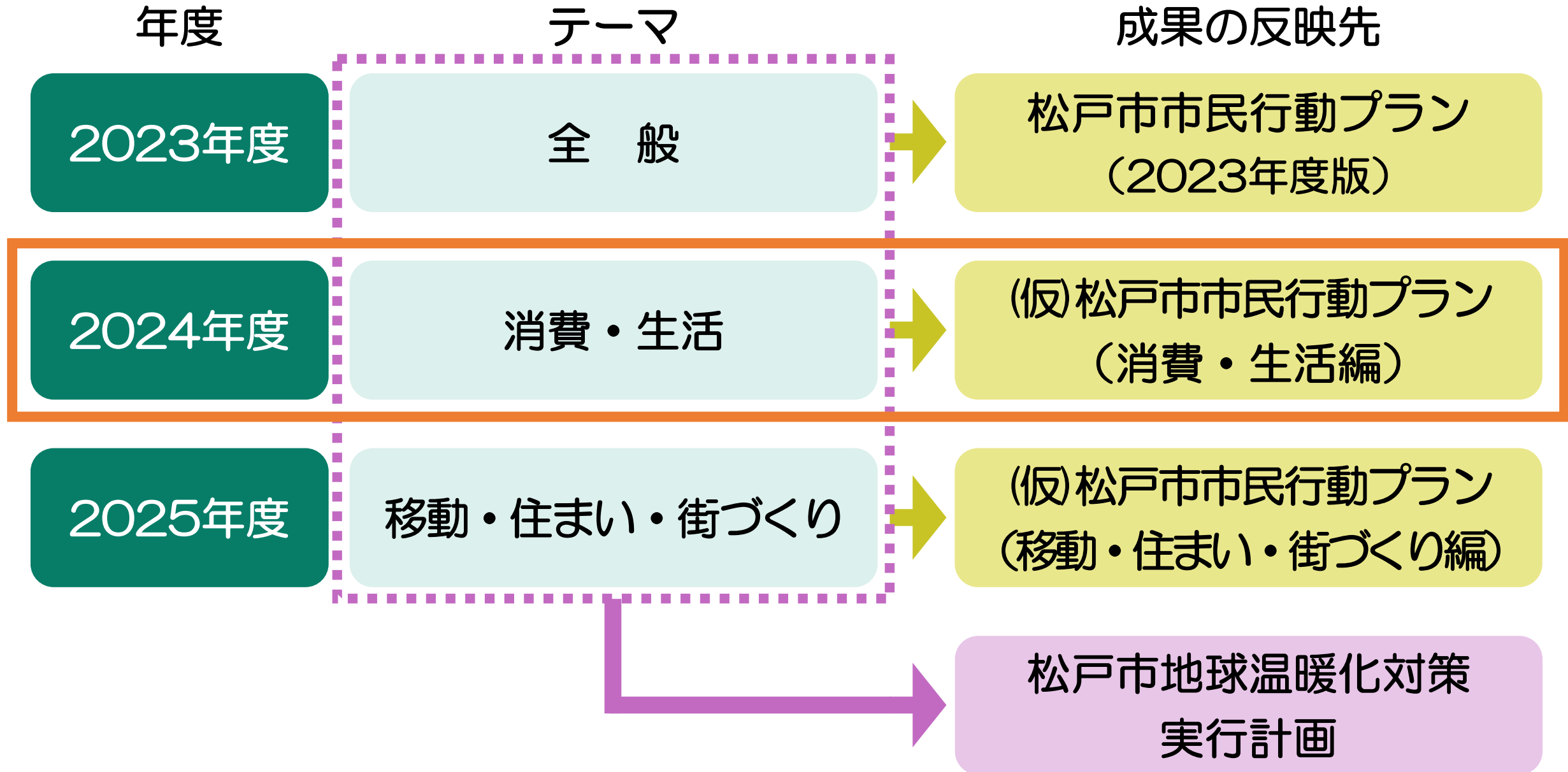
✓取り組みの内容を精査したうえで、「市民行動プラン」や「地球温暖化対策実行計画」に反映していきます。

松戸市地球温暖化対策実行計画



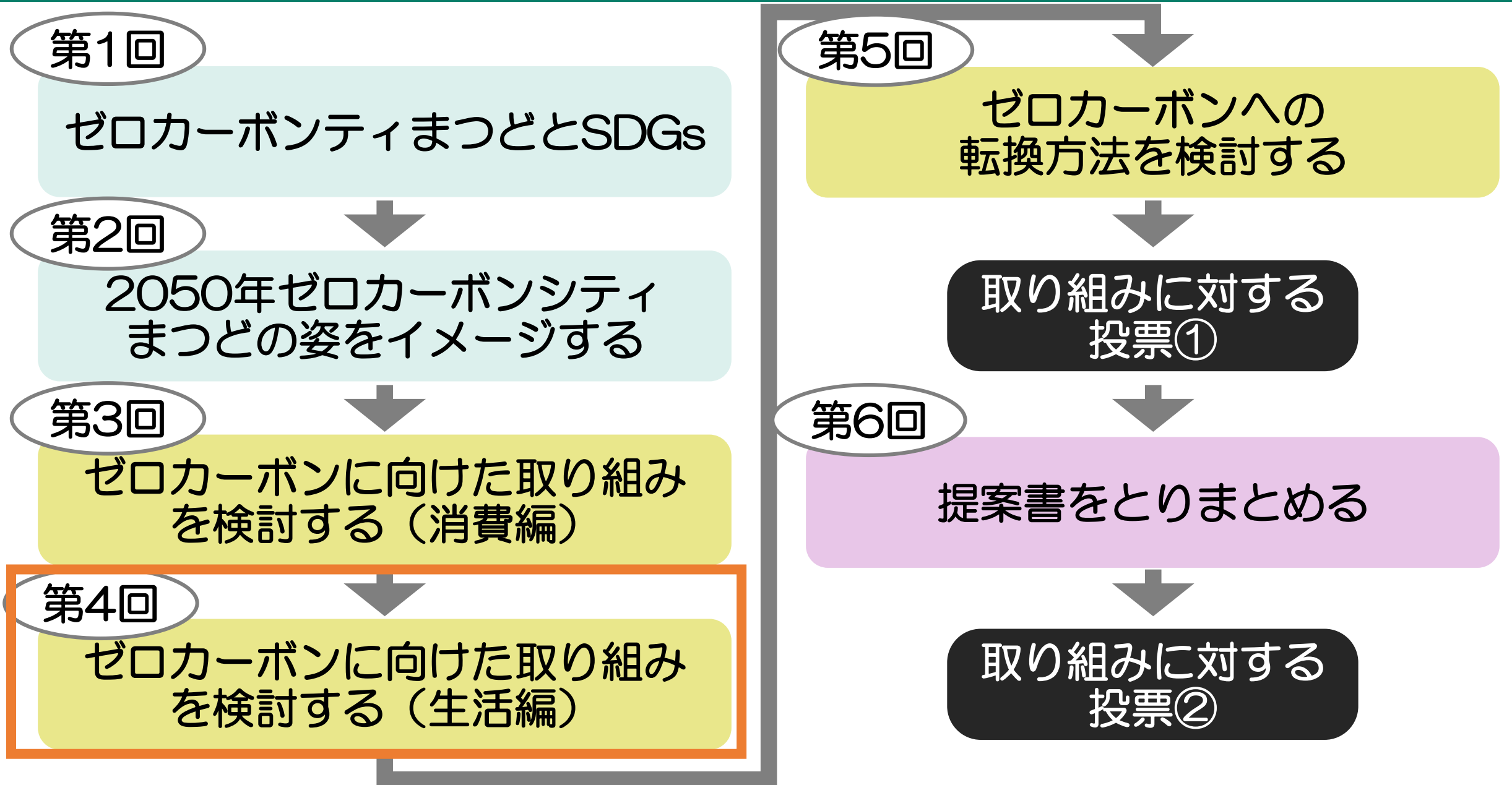
2024年度の位置づけ

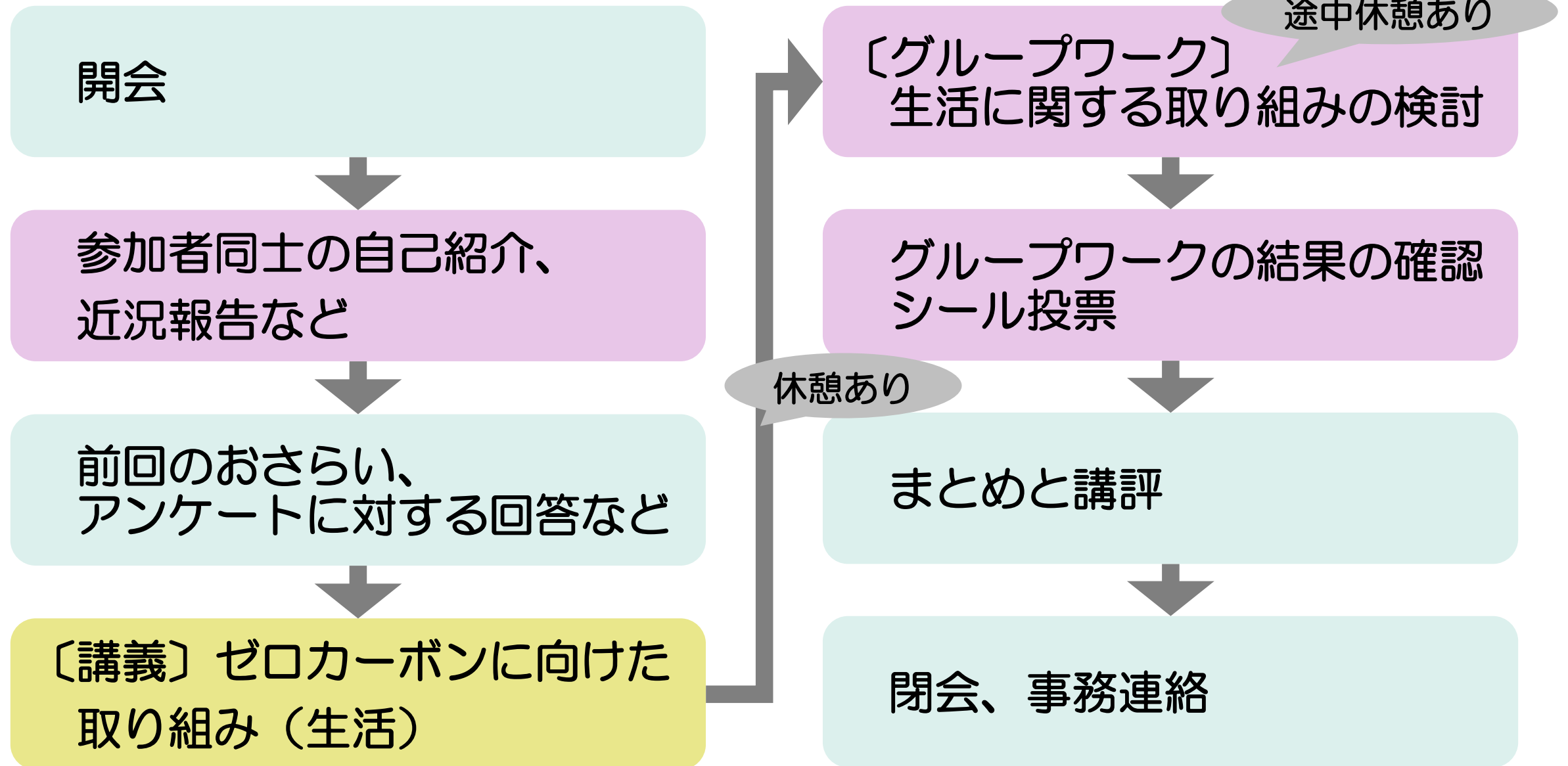
松戸市環境未来会議2024



2024年度の流れ（テーマ：消費・生活）

松戸市環境未来会議2024





参加者同士の自己紹介
近況報告など

自分のカーボンフットプリントを計測してみる

じぶんごとプラネット

気候変動を じぶんごとにする

脱炭素で持続可能な未来のために、ひとりひとりが今の生活スタイルの気候変動への影響を知り、小さなことから一つずつアクションを起こす。こうして「じぶんごと」の輪が広がっていきます。



<https://www.jibungoto-planet.jp/>

出典：じぶんごとプラネットWEBサイト

覚えていますか？ 本日までの宿題

松戸市環境未来会議2024

質問に答えると
カーボンフットプリント量がわかる



住居



約10問



食



約6問



移動



約7問



モノとサービス



約8問

識別ID:

脱炭素アクションをみる



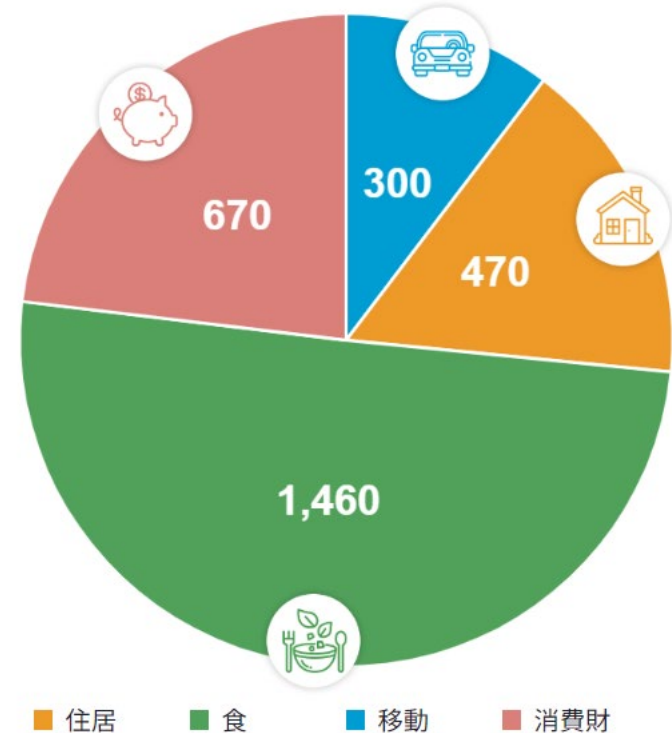
社会へ働きかけるには



出典：じぶんごとプラネットWEBサイト

あなたの1年間の
カーボンフットプリント量

2,900
kg CO₂e



出典：じぶんごとプラネットWEBサイト 14

【お話頂く内容】

- ✓ 呼ばれたいお名前
- ✓ 参加の動機
- ✓ 会議に参加して変わったこと（又は宿題についての感想）
など

【順番・時間】

- ✓ ファシリテーターから順に時計回り
- ✓ 1人1分程度

終了時刻
13:20

前回のおさらい、
アンケートに対する回答など

前回のおさらい（ゼロカーボンに向けた取り組み（消費））

【製品に関する取り組み】

※配付資料3から一部抜粋

1. 持続可能な製品を普及させる

【市民】

- 環境や社会に配慮した製品を買う、製品の良さを発信する
- 地元で作られた製品を買う、製品の良さを発信する（ブランディングに貢献する）
- 企業に対して製品の機能などの面で過剰な要求をしない（機能が多すぎて生産や使用の際に必要以上にCO₂を排出しないようにするため）

【事業者】

- 環境や社会に配慮した製品を生産する
- 調達や生産等の過程、CO₂削減量等を公開する、環境や社会に配慮するために適正なコストがかかっていることを示す

【行政】

- 環境や社会に配慮した製品を周知する
- 地元で作られた製品をブランド化してPRする

2. 生産と消費の量を減らす

【市民】

- 必要なものを必要な量だけ買う、量より質を意識する、広告や宣伝に踊らされない
- 量り売り、ばら売りの店で必要な量だけ買う
- 服などは、流行っていて後で飽きる可能性があるものではなく、長く使える定番のものを買う
- ものを大切に長く使う、リペアしながら使う

【事業者】

- 製品の生産量や仕入れ量を売れ残りがでないように調整する
- 長く使える製品をつくる
- 生産者が廃棄やリサイクルの段階まで責任を負う（拡大生産者責任）

【行政】

- リデュース、リユース、リサイクルの順に優先するという3Rの考え方を周知する

前回のおさらい（ゼロカーボンに向けた取り組み（消費））

【製品に関する取り組み】

※配付資料3から一部抜粋

3. プラスチックの使用量を減らす

【市民】

- プラスチックではない素材（紙、布など）でできた製品を買う
- 包装が簡易な製品（ラベルレスのペットボトルなど）を買う、販売店での包装を断る
- エコバックを持ち歩く
- マイボトルやマイカップを持ち歩く

【事業者】

- プラスチックの代替素材で製品をつくる、代替素材を開発する
- 包装が簡易な製品、プラスチック以外の素材やリサイクルしやすい単一素材で包装した製品をつくる

【行政】

- プラスチックの削減量に対して助成する
- ウォーターステーションを設置する

4. リユース、リサイクルを進める

【市民】

- リサイクルショップやフリーマーケットなどで中古品を売り買いする
- リサイクルでできた素材を使用した製品を買う
- リサイクルしやすい素材、分別しやすい構造の製品を買う
- ごみをしっかり分別する

【事業者】

- 再利用を前提とした製品をつくる
- リサイクルでできた素材を使用した製品をつくる
- リサイクルしやすい素材、分別しやすい構造の製品をつくる

【行政】

- 学校制服などの引き取り、譲渡を行う
- リサイクルした原料がどのように活用されているかを公開する

前回のおさらい（ゼロカーボンに向けた取り組み（消費））

【食材、食品に関する取り組み】

※配付資料3から一部抜粋

5. 持続可能な食を普及させる

【市民】

- 環境や社会に配慮した食材や食品を買う、食材や食品の良さを発信する
- 地元農家がつくった旬の野菜や果物を買う
- 地元農家が運営する直売所で野菜や果物を買う

【事業者】

- 環境や社会に配慮した食材や食品を生産する
- 地元農家がつくった旬の野菜や果物を積極的に売る、ブランド化してPRする
- 飲食店で地元農家がつくった旬の野菜や果物を積極的に利用する

【行政】

- 地元農家がつくった旬の野菜や果物をブランド化してPRする
- 地元農家と消費者をつなぐ仕組みをつくる、販売場所を提供する

6. 食品ロスを減らす

【市民】

- 食べきれる量だけ買う、料理する、注文する
- 食べものに感謝して残さずに食べる
- 売り切れに対して寛容になる（販売店が食品ロスを前提とした大量注文をしないようにするため）
- 賞味期限、消費期限の古いものから順に買う

【事業者】

- 3分の1ルール（製造日から賞味期限までの合計日数の3分の1を経過した日程までを納品可能な日とし、3分の2を経過した日程までを販売可能な日とする商慣習的なルール）を見直す
- 飲食店などで少なめのメニューを用意する

【行政】

- 食品ロスを減らした企業などに助成する
- 食品ロスの少ない販売店や飲食店を認定してシールなどを配付する

前回のおさらい（ゼロカーボンに向けた取り組み（消費））

【食材、食品に関する取り組み】

7. 生ごみのたい肥化を普及させる

【市民】

- 自宅で生ごみをたい肥にして活用する

【行政】

- ごみ集積所や学校などに生ごみをたい肥化するための箱を設置する

【普及啓発に関する取り組み】

8. 持続可能性について学ぶ、話し合う、発信する

【市民】

- 環境や社会の問題、エシカル消費について主体的に学ぶ、実践する

※配付資料3から一部抜粋

- 家庭内や地域で環境や社会の問題、エシカル消費について話し合う
- 環境や社会の問題に関する情報や考え方をSNS等で発信する
- 事業者、行政の取り組みを厳しくチェックする

【事業者】

- 環境や社会への取り組みをWEBやメディアなどでアピールする
- 環境や社会の問題、エシカル消費などのイベントや勉強会に協力する

【行政】

- 小学校などで環境や社会の問題、エシカル消費、ごみの分別などについて教える
- 環境や社会への取り組みを広報誌、ポスター、SNSなどで発信する（情報発信の方法を民間企業から学ぶ）
- 松戸市環境未来会議のような会議を増やす、就労世代の参画を促す

【意見・質問の概要】

- ✓ ヨーロッパで取り組みが進んでいる背景は、国民性の問題だけではないと思うが、どのような行政の取り組みが有効なのか。

【回答】※第3回講師（山口氏）より

- ✓ サステナビリティを発展の軸におき、行政も企業も、そして産業界も活動している傾向があると思います。
- ✓ 日本のような省庁縦割りという感じではなく横断的に取り組みながら、行政も国から市レベルまで、全体的な動きも後押しとなりつつ、個々の取り組みもサステナビリティに向けて独自に展開しています。
- ✓ 市民の声も反映しつつ、みんなで取り組んでいるとも言えるかも知れません。

【意見・質問の概要】

- ✓ エシカルな消費のあり方は、自然や経済人間社会とのバランスの上に成り立つため、個々の地域によって最適な形が変わると思う。
- ✓ 松戸という地域ではどのような課題があると思われるか。

【回答】※第3回講師（山口氏）より

- ✓ 松戸という素晴らしい地域で生産された農産物や企業の取り組みを応援したり、商店街含めて地産地消や地域との繋がりを大切にする
ことが良いかと思います。
- ✓ 循環型社会の観点からも廃棄物を循環させたり、効率的に消費者が混乱
せずにライフスタイルの中で取り組める方法が必要かも知れません。
- ✓ 首都圏にも近い点から、子育て世代や働きやすく暮らしやすい社会の中
で、無理なくエシカルに取り組めるような工夫があるといいですね。

質疑応答（5分程度）

〔講義〕

ゼロカーボンに向けた取り組み
(生活)

スライド切り替え

休憩（14:10まで）

※お菓子をお配りします。

ご自由にお召し上がりながらご歓談ください。

感想と質問の共有

【感想】

- ✓ 講師のお話に対する感想

など

【質問】

- ✓ 講師に対して質問したいこと

など



- ✓ 後ほど、講師に質問できます。
(本人又はファシリテーターから口頭で質問)

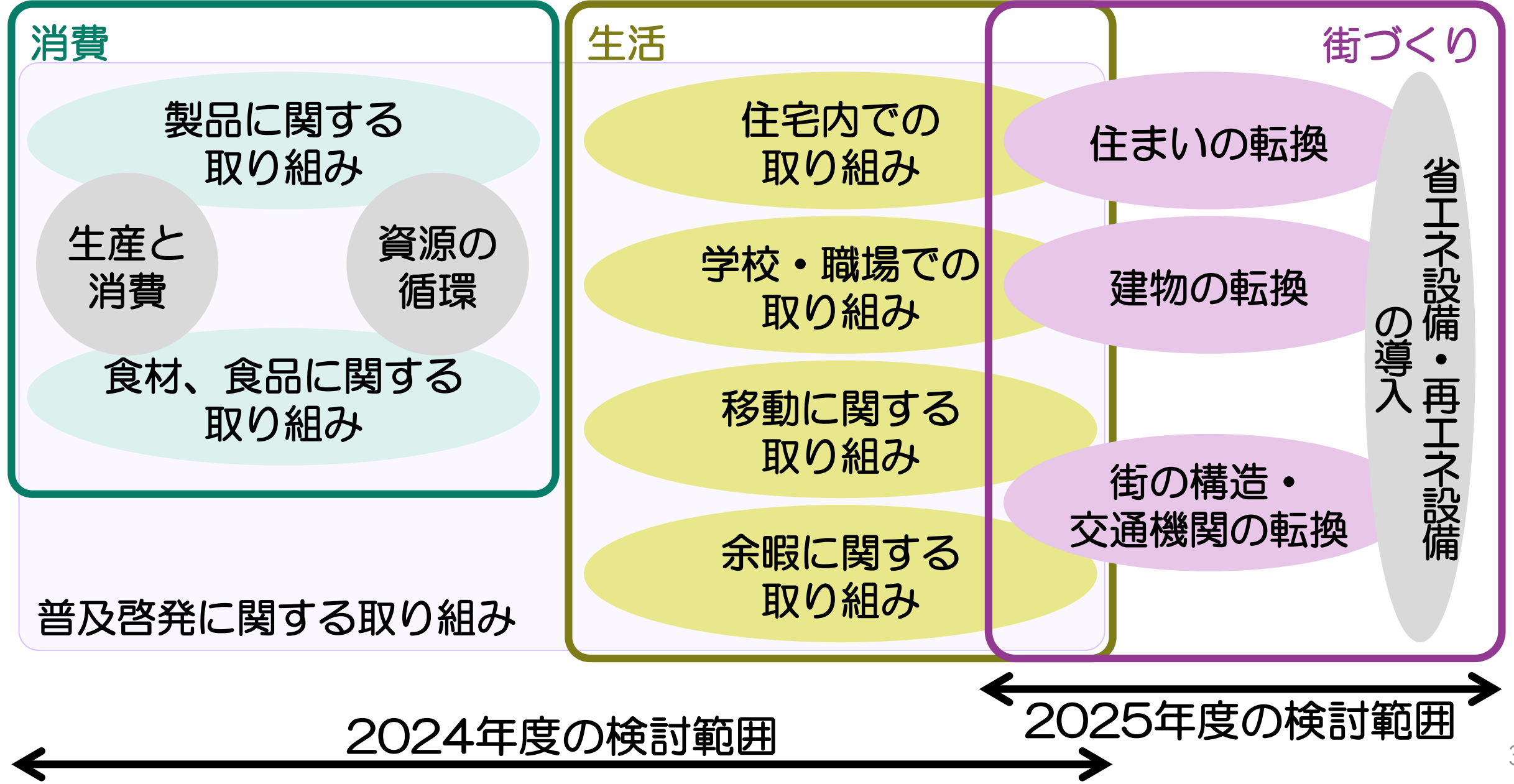
終了時刻
14:25

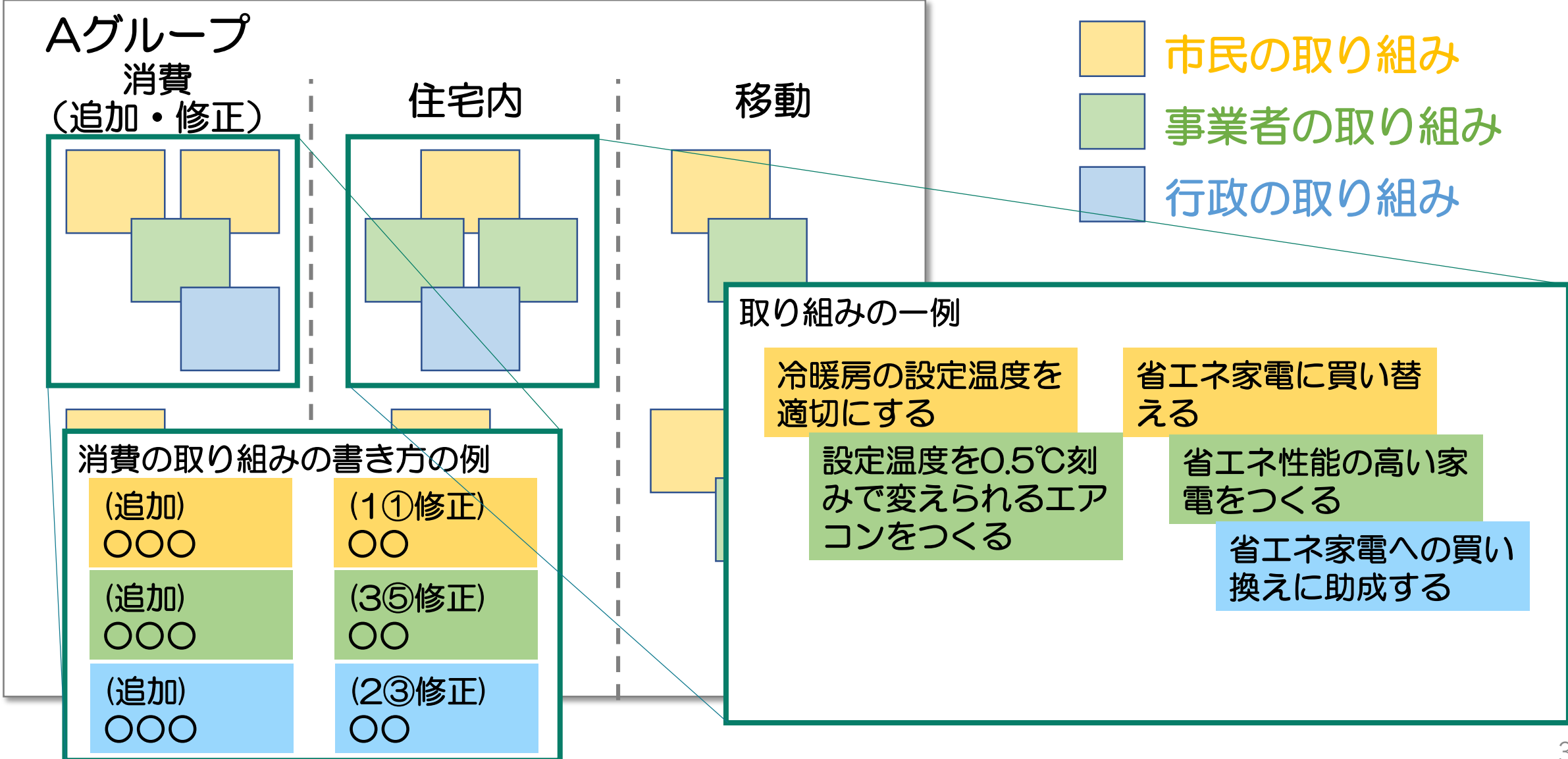
質問の発表・質問に対する回答 (15分程度)

〔グループワーク〕 生活に関する取り組みの検討

グループワークでの検討範囲

松戸市環境未来会議2024





【まずは個人で】

①生活に関する取り組みを考える

- ✓消費は？（追加・修正）
- ✓移動の距離・回数・手段は？
- ✓余暇時間の工夫は？
- ✓住宅内での省エネ・再エネは？
- ✓学校・職場での工夫は？
- ✓啓発方法は？

など

②考えたら、その内容をふせんに書く

- ✓1枚にひとつずつ書く
- ✓伝えたいことが分かるように書く（例：●●を▲▲する）

【次はグループで】

③ふせんに書いた内容を貼りながら皆さんにお話する

- ✓ 1人ずつ順番に
- ✓ 最初は1人1分半程度を目安に
- ✓ 似たような取り組みが出てきたら近くに貼る

④自由に意見交換する

- ✓ いろいろな人の意見を聞きながら、生活に関するゼロカーボンの取り組みを膨らませていく
- ✓ 追加したい意見がでてきたらふせんに書いて貼る

- ✓ 対話はキャッチボール。
短く話そう、よく聴こう！
- ✓ 途中で遮らない。最後まで聴こう！
- ✓ 違って当然。違いこそ可能性！
- ✓ 寄り道もOK！
でも、何の話し合いが忘れずに。



【まずは個人で】

- ①生活に関する取り組みを考える
- ②考えたら、その内容をふせんに書く

・ ・ 併せて3分

【次はグループで】

- ③ふせんに書いた内容を貼りながら
皆さんにお話する
- ④自由に意見交換する

・ ・ 1分半×人数
・ ・ 約20分

【最後にまとめ】

- ⑤ふせんの位置などを整理する

・ ・ 約5分

市民の取り組み

・ ・ 34分

事業者の取り組み

・ ・ 28分

行政の取り組み

・ ・ 28分

終了時刻
16:30

グループワークの結果の確認、
シール投票

【準備する】

- ①模造紙を見やすいように置く
- ②1人につき14枚シールを持つ

【他のグループを回る】

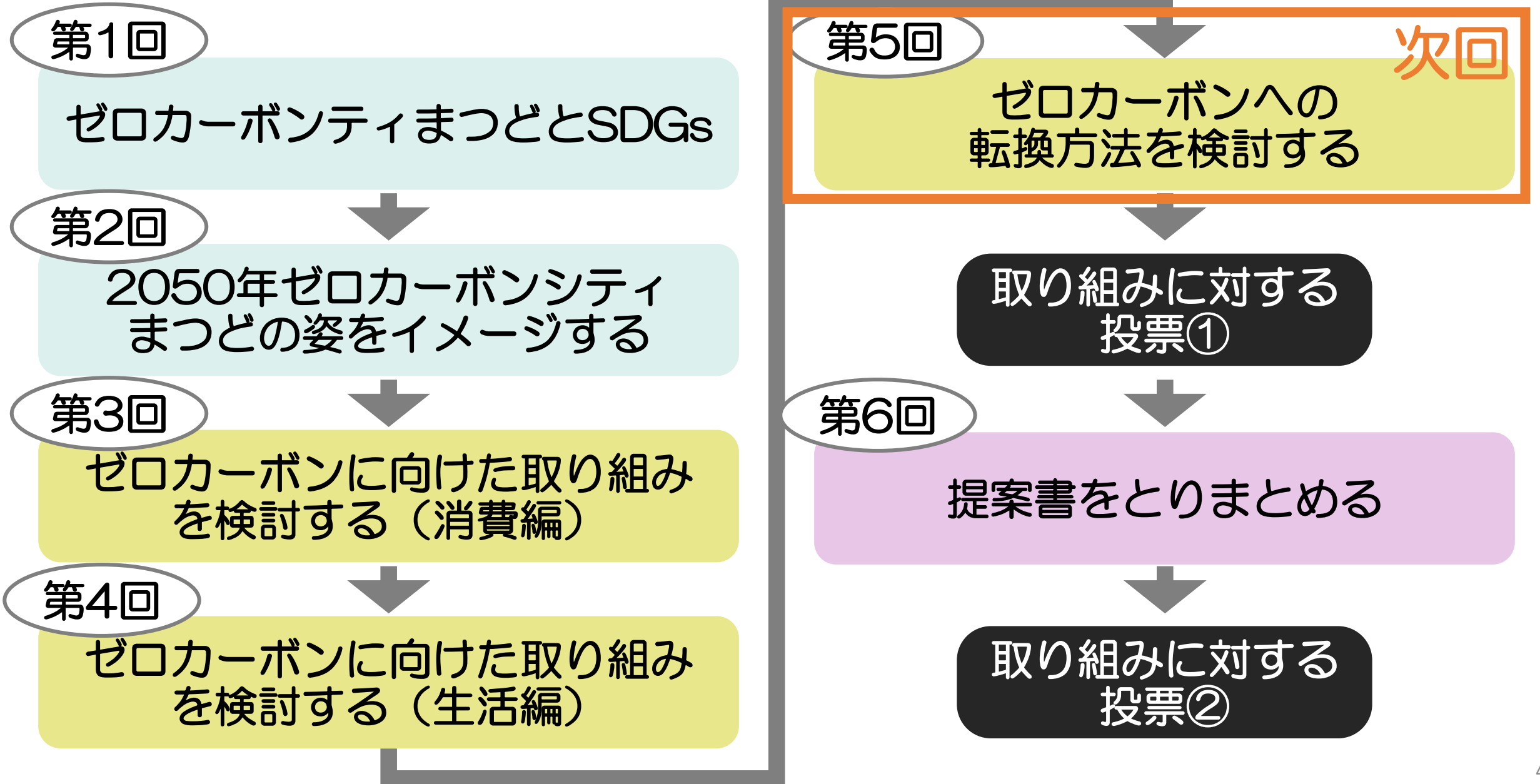
- ③隣のグループに移動して模造紙を眺める
 - ✓ Aグループ⇒Bグループ⇒ . . . Hグループの方向に
 - ✓ 1グループにつき1分40秒を目安に（合図します）
- ④気に入ったところにシールを貼る
 - ✓ 1グループにつき1人2枚まで

まとめと講評

閉会、事務連絡

2024年度の流れ

松戸市環境未来会議2024



第4回テーマ ゼロカーボンへの転換方法を検討する

【日 時】

2024年9月8日（日）

13:00～17:00（12:40受付開始）

【場 所】

キテミテマツド9階 アートスポットまつど
（住所：松戸市松戸1307の1）

本日と同じ

これまでに挙げた取り組みを市民に浸透させるためのアイデアを考えてみる

- ✓ 第3回、第4回で様々な取り組みを挙げて頂きました。
- ✓ ゼロカーボンを実現するうえで欠かせない取り組みが挙がってきたと思います。
- ✓ 街全体でゼロカーボンを実現するためには、皆さんに挙げていただいた取り組みを市民に広く浸透させていく必要があります。
- ✓ 次回会議ではこのような視点での検討を進めていく予定です。

- ✓ アンケートにご協力をお願いします。
(スマートフォン利用の場合の回答期限：8月21日)
- ✓ 名札は外してテーブルに置いたままをお願いします。
- ✓ この場で報酬をお渡しします。
おかけになったままお待ちください。
受領証への記入をお願いします。
- ✓ この会場は、18:00までご利用いただけます。
参加者同士の交流の場としてご利用ください。